

はじめに

新型コロナウイルスで世界中がパタパタした頃、『日刊スポーツ』から原稿の依頼をいただいた。ステイホームの始まり、原稿を書くに好都合、ボケ防止のためにも嬉しかった。原稿の書く時間が十分あり、今まで活字にしたことのない事柄をマスタに埋めることにした。

人間のことだから、特に私は記憶で原稿を書くタイプなので間違いも多々ある。さすがに日本初のスポーツ新聞社、編集者がきちんと訂正してくれた。内容は多岐にわたるように工夫した。読者にプロレスのファンが多いと知り、その関係の原稿も書いた。

連載が一応30回に達したので、印刷してまとめることにした。関西の友人・知人にも読んでいただきたいと考えたからである。連載は、まだまだ続く予定だが、内容がおもしろくなければクビになると思う。クビになるまで続けて、一冊の小冊子にしたことも勝手に考えている。

原稿を書くのが趣味とはいえ、読者の興味も頭の中に入れておかなければならないし、知的な一面もなければ、大学人として恥をかき。しかし、スポーツ紙であることを考慮して、楽しく読んでいただけるように一応、工夫はしている。1回、800文字、その中に一つのストーリーを書くのは難しいが、楽しみでもある。

できるだけ、原稿の味がタイムリーである方がいいに決まっている。が、学術的な内容に走ってしまうと時事問題から外れてしまう。可能な限り、スポーツ、身体、健康、教育、身体文化の範囲から逸脱しないように注意し、読者の期待に応えたいと考えている。

3度のがんを体験し、元気になった証しとして、執筆させていただけるのは幸運そのものである。感謝、感謝。
ご笑読いただければ幸いです。

2020年6月吉日

松浪 健四郎

正番タラシ

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆

2024年のパリ五輪、野球とソフトボールはベケとなった。サッカーの普及している国では、野球は盛んではない。米の野球用具の大手メーカーだったスポルディング社が、欧州に輸出しようとしたが失敗したのは約100年前。手の文化たるサッカー。野球はサッカーに負けたのである。

JOC竹田前会長の功績

2020年の東京五輪、ダイヤモンド・スポーツとして、男子は野球、女子はソフトボールが正式種目として採用された。JOC竹田恒和前会

長の功績である。私が使いたとして、クウェート国の皇太子殿下(OCA II アジア・オリンピック評議会議長)に陳情のために出向した。韓国の仁川(インチョン)で開催された2014年のアジア大会の3年前であった。皇太子のシェイク・アハマド殿下は、日本大名の名譽博士で、IOC委員かつアジア・ハンドボール連盟の会長でもあった。広島で開催された1994年アジア大会は、初めてアジアの全ての国が参加した。東ティモールやアフガニスタン選手団の費用は、殿下のポケットマネーで賄われた。それらの業績を日体大が評価したのだ。

アジア大会の正式種目でない競技が、五輪種目に押し込むのは難しい。仁川、そしてインドネシア・ジャカルタでのアジア大会でも野球とソフトボールが実施された。これで東京五輪が正式種目として日本が大きな顔をして主張することができた。

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう)1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米・東ミシガン大に編入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。2008年、北京五輪ソフトボール決勝、日本対米国、金メダルを決めた瞬間、カツツポーズで喜ぶ上野由岐子



2008年、北京五輪ソフトボール決勝、日本対米国、金メダルを決めた瞬間、カツツポーズで喜ぶ上野由岐子

正音タラシ

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆

大相撲の本場所は、テレビ機数で800万人前後のファンが楽しむ。ファンの特質は、古典的伝統を愛し、様式美を大切に。力士たちは個性を発揮して力量を競い合う。ファンは、その戦う迫力に酔うのだ。

スポーツ紙の役目とは

野球ファンは、ひいきチームの監督になるために観戦する。ノーアウト、ランナー一塁、さあ、監督はどうするか。バントかヒットエンドラン、いや盗塁だ。この采配こそ

それが武将の仕事、兵たる選手たちの指揮をとるおもしろさ、それを楽しむのが野球ファンの特質であらうか。

サッカーのファンは、自身がフィールドに立つ代理選手として観戦する。フォーメーションを理解し、相手側の「情報」を入手して戦う。敵の防御体制を崩して攻撃に転じる。カウンタ

自分自身が仮想力士になって作戦を練るおもしろさ、予想どおりに相撲が展開して勝利、勝ち名乗りを受ける醍醐味(だいがみ)。ファンは多くの「情報」をもとに強い仮想力士になりきる。

がおもしろい。自分の考えていた「知識と情報」による作戦を取らず、最悪のケースになれば、ひいきチームなのに罵倒する。采配のためには、しっかりと「資料とデータ」を入手しておく。采配こ

リングな試合展開、ヤジを飛ばす余裕などなく、プレーヤーになりきる。本当は、どのスポーツもおもしろいのだ。そのことは、ラグビーのW杯で私たちは学んだ。スポーツ種目に詳しく、ルー

ルを理解し、選手の個人情報や密であればあるほどおもしろい。が、スポーツ各紙は、野球を中心にメジャースポーツに偏り過ぎていて、他競技の発展をあまり視野に入れていない印象を受ける。くわえて、球団の機関紙のようなスポーツ紙もある。社の方針だろうがフェアでない。

さまざまなおスポーツを報じて、ファンを増やすためのスポーツ紙であって欲しい。スターを各競技で作るのもスポーツ紙の役目だ。政界の幹部も、こそって愛読しているのだから。



3月22日、優勝し賜杯を持つ白鵬=エディオンアリーナ大阪

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入。69年、全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

正音多之八

日本協青大理事長 松浪健四郎

題字は直筆

学校の行事たる遠足、修学旅行、学芸会、運動会は、日本の学校だけが持つ独自の催し物なのである。勉強の嫌いな私にとって、これらの行事こそが存在感を示すありがたいもので、学校嫌いにならずにすんだ。

遠足、学芸会、運動会 行事こそ人材育成へ

講堂や体育館にわざわざ劇場みたいに舞台を設置しているのも日本の学校の特徴だ。いや、その地域社会の劇場は、学校の舞台があればこそ。学芸会は、学区内の人たちが弁当持参で集う中で行われた。劇、音楽、詩の朗読等、さまざまなプログラムがあった。私は悲しいかな常に演技力不足で脇役の出演者だ。娯楽の少なかった時代、学芸会と運動会は地域社会の呼び物で集客力があり、盛り上がった。

遠足や修学旅行は、児童や生徒たちの最大の楽しみ。前夜は興奮して寝床でゴロゴロ。日本人は昔から旅好き、その伝統が生きている。谷釜専徳、東洋大教授の研究『歩く江戸の旅人たち』(晃洋書房)を読んで納得した。太平の江戸時代、庶民間に「旅行」が流行する。経済力を手中にしたから

である。娯楽目的で長距離徒歩旅行を楽しむようになった。名所見物、寺社参詣、温泉めぐり、名物の食べ歩き、それに女郎遊びなどを目的としたらしい。とくに伊勢神宮の参拝が社会現象となり、1830年の伊勢参宮は日本人の庶民の6人に1人が行ったという。遠足や修学旅行が、学校行事へと受け継がれたのだ。

運動会こそが、私の大活躍の場であった。明治の初めに札幌農学校や東大で始められた。紅白玉入れは、歴史的な打毬(うちまり)の変形。八戸市や山形市の神社の夏祭りでも打毬を見ることができ。綱引きは豊穰儀礼として古くから世界中で行われていた。メインは対抗リレー。日本人のリレー好きは、現在の日本チームに伝わっている。これらの学校行事こそが人材を涵養(かんよう)する。とくに個性的な人物づくりに役立っている。が、進学校と呼ばれる学校は、これらの行事をやめて、受験勉強に振り替えている。受験勉強は、本当に人材育成に役立っているのか。



観光客でにぎわう伊勢神宮内宮(2013年12月の日)

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう)1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブル大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

日刊スポーツ

NIKKAN SPORTS

日刊スポーツ新聞社
東京都中央区築地3の5の10
〒104-8055 電話(03)5550-8888

2020年 4月7日
(令和2年)

7版 火曜日(大安)

©日刊スポーツ新聞社 2020

(日刊)第26525号 昭和21年4月15日第3種郵便物認可



題字は直筆

日本体育大理事 松浪健四郎

発展途上国で人気が高い国は日本だという。地道に政府が経済援助をはじめ、さまざまな援助を切れ目なく行ってきた帰結だ。国際協力機構(JICA)が、きめ細かい援助を行い各国の人々に感謝されている。

JICAは、青年海外協力隊という半ばボランティア組織を持つ。職種は雑多だが、体育教師やスポーツ指導者の派遣要請も多い。立命大、東農大、日体大が協力隊員の派遣者数を競ってきたが、昨秋から日体大がトップに立った。国際化教育の成果である。

どの企業も組織も国際人を欲している。グローバル化された社会、そこで活躍するには国際感覚のあるかなしかがモノをいう。文科省は、必死になって外国留学に「トビタテ」と奨励中。で、私は協力隊への参加を勧める。

スポーツマンが、国際貢献できるばかりか国際人へと変身できるチャン

ス。若さがあるゆえ、貴重な体験を手中にできる。私自身、若い時にアフガニスタンで3年間、体育とレスリングを指導した。この経験が、私の視野を広げたと見え、人間的にも成長させてくれた。

スポーツ武器に国際人たれ

2020年の東京五輪に立候補した際、安倍総理は途上国へスポーツ指導者を多数派遣すると公約した。その受け皿が青年海外協力隊で、派遣隊員数も増加した。このボランティア活動は、私に言わせれば、公募による「留学」である。この制度を利用しない手はない。私は学生たちにトライするように熱心に説いている。



2016年10月22日、ウオーミングアップ中にジャンルカラバドゥーラ(中央)と談笑するACミラン(右)本田圭佑(右)

実は私の娘も甥(おい)も元協力隊員。みごと国際人へと成長した。スポーツのできる若者よ、国際人になれ。特技をいかして国際貢献に情熱を燃やして欲しい。大きなキャリアアップにまちがいないつながる。この遠回り人生こそが人を創り、成長させてくれる。モノを考えないスポーツバカを増やしてはならない。スポーツを武器にして国際人へと脱皮すべきた。口先だけのスポーツマンになってはいけない。外国語を恐れるな、決意と行動力さえあれば、オモロイ人生が待っている。

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東シシガン大に編入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

日刊スポーツ新聞社 2020年 4月8日
 東京都中央区築地3の5の10 (令和2年)
 〒104-8055 電話(03)5550-8888
 ©日刊スポーツ新聞社 2020 7版 水曜日(休)
 (日刊)第26526号 昭和21年4月15日第3種郵便物認可

音タラシ

日本体育大理事長 松浪健四郎



題字は直筆



W杯アジア3次予選 日本対北朝鮮 国歌を聴く梁勇基(リャン・ヨンギ=左から2人目)ら北朝鮮イレブン=2011年9月2日

嫌いな国のアンケートを取ると、上位に朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)がランクされる。「ならず者国家」と表現する人がいるくらい、北朝鮮が嫌われている。核武装し、ミサイルを花火のごとく打ち上げる国、何よりも拉致問題を解決しようとしていない国。これでは日本人は、北朝鮮を恨むばかりであろう。だが、私は北朝鮮を4度も訪問した。サッカー男女、レスリン

グ男女、バスケットボール男女、柔道等の日体大チームを引率し、スポーツ交流を2012年から続けている。嫌いだからといって、いつまでその感情を私たちは抱き続けるのか。隣国と仲良く交際するには、いかなる思考と行動が求められるのか。

五輪は平和の祭典である。で、日本政府は国交のない北朝鮮選手団の入

扉動かすスポーツ交流

私たちがスポーツ交流は、ギリギリの線の交流だが、大変な歓迎を受け、どの試合も満員になる。北朝鮮の国民は、日本人を嫌うところか憧れてもいる。平壤から逆に日本を透視すれば、もう少し私たち日本人も大人になる必要があると痛感する。悪口ばかりを吐き続け

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう)1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

国も認めざるを得ない。強い経済制裁を果たし、圧力をかけ続ける日本、一体、どうなれば国交を樹立することになるのだろうか。

ミサイル(近年飛翔しひしゅう)体とか発射事案と表現)を打ち上げる報道に接するたび、私は北朝鮮からのメッセージだと捉えている。「私たちも日本人の渡航を禁止して欲しい」と、日本は在日の朝鮮学校への支援を反目的として打ち切った冷たい態度。しかも日本人の渡航を禁止

でも、相互の理解は進まない。世界中、同じ価値観で評価できるスポーツこそが、人々の心を打つ。中国との国交は、「ピンポン外交」から始まった。北朝鮮の硬い扉を開けるのは、スポーツ交流しかない。私は考えている。スポーツ指導者たちよ、少しくらい「平和」について思慮してはどうか。2020年東京五輪決定に、北朝鮮の張雄IOC委員が、東京に投票してくれたメッセージを私は忘れない。

男の魅力は腹筋とお尻

糖尿病の私は、医師から運動するようと言われていた。血糖値を下げるためには、運動が効果があるらしい。それで私は、大学のトレーニングセンターに足を運ぶことにした。現役時代を想起しても、古希をどっくに過ぎた元レスラーでは、たいしたトレーニングは無理。女子学生たちにも負ける筋トレだ。ところが、3月に入って

から、トレーニングセンターはクローズ。新型コロナウイルスのせいである。トレセンで感染者が増加したという報道は、大学にまで影響が及んだ。寒い中、しょぼしょぼと歩くしかない。走ったとしても、すぐに歩いてしまう。もう根性なんてない。日体大の女子学生たちは、専門の己の競技のために体力強化に励んでいる。

が、一般の女性たちは、おしなべて「ダイエット」を究極のテーマとしているらしく、24時間営業のジムが大繁盛。われら男の肥満は部分的であるが、女性のそれは全身だ。で、熱心にジムに通う。美の追求には時間と金をかける。

男はハラという局部肥満、だから必死になって腹筋運動をする。がんも患ったので、減量もしていないのに異常なほど痩せた。が、退院すると食欲が増して、すぐに元に戻った。でも、

体はデブデブ、筋肉質の体に戻したい。

ダンベルで両腕を鍛える。カゴブも出てきた。低下した基礎代謝を活性化させるために汗を流す。ベンチプレスもするけれど、女子学生たちよりも軽い30㎏、ちょっと恥ずかしい。スクワットもする。これは重要である。

風呂に入って己の体を鏡に映した時、お尻にシワが寄っている悲惨さ、いよいよ年を感じてしまう。スクワットに精を出すにして



日本体育大理事長 松浪健四郎

題字は直筆

も、すでに足や腰が弱くなってしまっている。お尻にアイロンをかけるがごとく、シワを伸ばすのだ。

男の魅力は、6つに割れた腹筋とブリッとしたお尻を持つこと。

年齢なんか関係ない。いよいよ熱心になってきている。高価なシューズに最新のトレーニングウエアを買ったのだ。読者諸氏、お尻にシワがあるかどうかチェックすべし。それにしても新型コロナウイルスに泣かされる。



見事な尻。座布団が舞う中、引き揚げる白蘭

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう)1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東シシガン大に編入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。



題字は直筆

広島カープは、広島市民に支えられてきた球団。この歴史と伝統は、熱烈なファンを育ててきた。このチームカラーも愛され、全国にファンを持つ。そこで広島球団としての特徴を發揮して、協力していただきたいことがある。私からのお願いだ。

最近、話題になっているのは、広島市に残る最大級の被爆建築である「旧陸軍被服支廠(ししよう)」の倉庫3棟のうち2棟を解体するというニュース。大正2年に完成した赤レンガと鉄筋コンクリートを併用した珍しい建物だ。軍服や軍靴などを作り、保管した倉庫。老朽化によって危険であるに加え、耐震工事に大金が必要だと報じられていた。

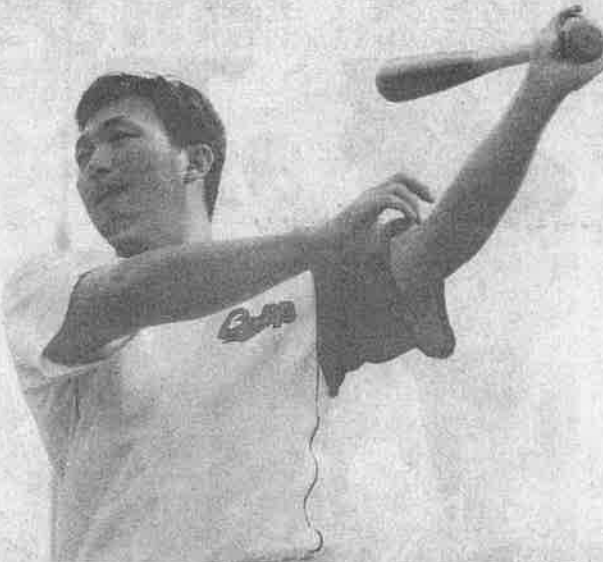
貴重な建造物を残すという文化的思考が希薄である現実を悲しむ。カープの選手たちよ、立ち上がって、この文化財を守ってくれないか。「リニューアル」より新築の方が

安くつく」と専門家たちは言うが、このレンガ倉庫は原爆に耐えたのだ。しかも被爆した市民が搬送された救護所でもあり、建築物としても価値が高いことを知っておいてほしい。

広島レガシー 旧陸軍被服支廠 カープよ守ってくれ

何よりも観光資源になる。広島県は、保存方法を考え、いかに3棟を活用するべきか研究し、多方面にせ協力と支援を呼びかけないのか。カープの選手たちやファンたちは、広島発展のためなら前向きに対応してくれると私は信じている。平和公園とともに原爆を語り継ぐ上でも貴重な、建築史的な建物を、保存すべきである。予算的にできないのなら、「ふるさと納税」で全国の人たちに呼びかけて協力をお願いしてほしい。広島は、悲惨な過去をもつ特殊な地である。その特殊性の上にカープが創設された。広島の人たちに勇気、元気、やる気を起こさせるための球団である。

2度と建てることのできない建造物、これを取り紐うアルして観光名所にすべきだ。試合前はこの建造物を見学してから応援に行く、ファンの楽しみを幅を広げてはくれないか。



広島カープの選手には、野球以外の面でも、松浪氏は大いに期待をしている。写真は中心打者の鈴木誠也

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東ミシガン大に編入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。

正面タラシ

日本体育大理事長 松浪健四郎



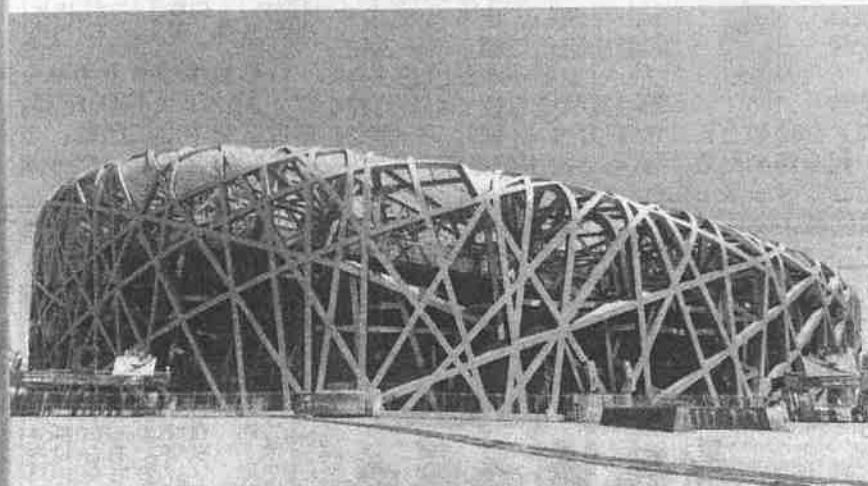
題字は直筆

イタリアの新型コロナウイルスの惨状ぶりに驚く。テレビでは、観光客のいないコロッセウムを映し出し、首都ローマもゴーストタウン化しているかのように報じていた。

紀元1世紀、立ち見席を入れて5万人の観衆を収容できるコロッセウムを造築したローマ人。莫大(ばくだい)な費用と労力をかけた建築物だが、観光地ローマの名所となつて金を稼ぐ。片やニッポン、アラブ人のザハ氏設計の国立競技場が、国際コンペで決定したにもかかわらず、建築費が高すぎるとボツ。

北京五輪、あの「鳥の巣」といわれる競技場は観光名所となっている。東京には、外国旅行者が期待して訪れる名所なんて多くはない。ザハ氏の競技場が出来ていたら、まちがいなく名所となつていただろう。後々、名所として後いでくれると発言した人は、残念ながらいなかった。「ハン

ザハ氏設計の新国立だったら



「鳥の巣」と呼ばれる北京国家体育場

ターイン」の声だけ。日本人は、どんなことでも多数の声になびく。五輪だからこそ建築できるといふ発想は消され、ただの競技場にしてしまった。屋根がないから使用目的も限られてしまふ。ケチくさい考えで2

1964年の東京五輪、政府は世界銀行から借金をして開催準備をした。新幹線、東名・名神や首都高速道路、東京地下鉄網の整備、ハード面

020のレガシーをつぶし、歴史的な高度な技術力を発揮して世界に誇るチャレンジャーでも金をつぎ込んだ。戦後、わずか十数年後のこと。先人たちの心意気に頭が下がる。借金は、平成2年に完済した。

施設は、その国の国力や国民性を象徴する。訪日した外国人は、富士山には感嘆するだろうが、建造物で驚くことはない。国力も技術力もあるのに、私たちが国民がだらしないために、ローマ人を凌駕(りょうが)することができなかった。優秀な国民とよくいわれるが、大胆さも、勇気もなかった。自虐的にならざるを得ないのは情けないかぎりだ。

◆松浪健四郎(まつなみ・けんしろう) 1946年(昭21)10月14日、大阪府泉佐野市生まれ。日体大時代にレスリングで学生王者に。68年、米東シシガン大に編入学し、69年に全米レスリング選手権優勝。79年から専大講師となり、88年に教授就任。96年の衆院選大阪19区に新進党から出馬して初当選。外務政務官、文部科学副大臣などを歴任。アフガニスタンの国立カブール大講師なども務め、中東外交に強いパイプを持つ。2011年から日体大理事長。